

2019-8-1  
No.1043 500円

# 思想運動

関西生コン支部への弾圧を許すな 2面  
「ベネズエラを知る会」盛会裏に開催 3面  
香港における二〇〇万人デモの深層 4面  
朝鮮人の遺骨問題に携わって(金哲秀) 5面  
一橋大学で学寮問題のシンポジウム 6面  
読者アンケートのなかから 12面

海にもゲート前にも座り込む人々の行動が、新基地建設の工事を遅らせる。沖縄の民意の日本全体、世界への広がりを期待したい。  
【写真と文】豊里友行 二〇一九年三月四日・名護市辺野古



七月二十一日投票の第三回参院選は、二十一日朝刊各紙が報じるように「与党勝利改選過半数」「脱売」「改憲勢力三分の二は届かず」「朝日」という結果であった。詳しい検討は別の機会に譲るが、ここでは基本的評価と今後の闘いの方向性を述べる。「最大争点」は「政治の安定」であった。「衆議院も併せれば、六回連続、国政選挙において、国民の皆様から、自民党への強いご支持を頂きました」「憲法改正」については「少なくとも『議論は行なうべきである』。これが国民の審判であります」という七月二十一日の記者会見での安倍発言は、得票率が史上二番目に低い四八・八％(低投票率は常態化)、公示前議席数からマイナス二〇、比例区での票を前回の一六年参院選より二四〇万票も減らした自民党の責任者による、またして

もの我田引水、噴飯もの。いつづつ、安倍政権による憲法改悪、貧困と格差の拡大などに反対する「野党共闘」側は、「改憲勢力三分の二割れ」を実現できなかったことを高く評価している。われわれも安倍政権打倒のためにともに闘っている者として、「改憲勢力三分の二割れ」を評価する。しかし、もちろん非は安倍自公政権側にあるとしても、衆参同日選挙の脅しをかけられ内閣不信任案を参院解散前日にしか提出できなかったこと。改憲、辺野古、原発問題なども統一した、毅然とした態度がみられないこと。権側に数々の失政・失策がありながら、結局は逃げ切りを許してしまうこと。総して

「無礼」は河野・安倍ら日本政府の側  
近現代を貫く帝国主義者の所業  
「他民族を抑圧する民族は自由ではありえない」——抑圧民族プロレタリアートのわれわれが、この真理からの解放をわがものにしよとすると、嘘で塗り固めた日本帝国主義者の歴史認識を打ち破る言論戦が喫緊の課題となる。われわれはその道を進んでいこう。  
【王松興】

19参院選  
選挙中心のものから見方から、大衆闘争中心のもの見方へ転換を！  
ルジコワ支配階級による「金持ちの白紙委任」でもある。高良候補が勝利したように、辺野古新基地建設反対という沖縄県民の大半の支持を得る大衆闘争を基盤にした、そうした選挙の闘い方に学ぶべきではないか。  
また今号二面に掲載したが、いま日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部に対して延べ七五名の逮捕という凄まじい弾圧がかけられている。資本と国家権力が一体となったこうした攻撃と労働者同士が連帯して闘つこと。その中で労働組合運動の再建・強化、労働者階級の階級意識の再形成をめざすべきだ。未だ資本の強固する「現実」に抑えつけられている人びとを奮い起こすためにも、闘争部分とその闘いを共有しようとする仲間が大衆運動レベルで連携し、協働・連帯の力を示すことがますます必要だ。  
【広野直三】